

琉球・沖縄史関係研究文献情報データベースの作成

岩崎 宏之：筑波大学歴史・人類学系

重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」総括班では、琉球・沖縄史関係研究文献情報データベースの作成と取り組んだ。云うまでもなく歴史研究は、過去の研究成果の蓄積のうえに築かれる。たとえそれが研究史のうえに僅かな知見を加えるものでしかなかったとしても、一つ一つの研究の積み重ねの上に新たな研究が成り立つものであり、過去の研究業績が正当に位置付けられなければならない。ともすると古い研究業績は、膨大な研究業績の集積のなかに埋もれがちであるが、コンピュータの持つ大量のデータを迅速に処理しうる能力によって、古い時期の、また些細な業績であってもこれをきちんと把握することができるようになった。琉球・沖縄史に関する研究文献情報データベースの作成は、本領域研究の重要な柱である。

研究文献情報データベースを作成する場合、本来であれば著書・論文等の一つひとつについてカードを起こし、データベースを作成しなければならないが、限られた研究期間のなかで、しかも限られた労力で作業効率をあげざるを得ない状況のもとでは、まず既存の文献目録類をもとにデータ入力を行ない、これを集成する方法が効果的ではないかと考えた。しかし既存の文献目録類は、そのデータの項目の採り方が一様ではなく、じつに様々に分かれており、これをひとつの基準で統合することはほとんど困難である。むしろ研究者にとっては、それぞれの文献目録のあるがままを電算化してそれぞれの特性に応じての使い方を考え、それとは別個に全体のデータを統合したデータベースを作成することのほうが合理的ではないか、と思われる。そのため領域研究の現段階では、まず統合したデータベースを作成するための素材としてこれらの文献目録の電算化を進め、これはこれで利用し、しかる後に全体を統合したデータベースの構築をはかることにした。そのような意味で、この「琉球・沖縄史関係研究文献情報データベース」は未だ作成途上の中間段階にあることをお断りしておきたい。

われわれがデータベースとして入力した目録類は以下の通りである。

- (1) 沖縄県立沖縄図書館「郷土史料目録」(昭和4年)
- (2) 国立国会図書館支部上野図書館(編)『琉球文献目録稿』(昭和27年)
- (3) 成城大学民俗学研究室(編・刊)『南島文献資料目録』(昭和34年)
- (4) George H. Kerr(編)、琉球大学発行『琉球文献目録』(『BIBLIOGRAPHY OF THE RYUKYUS』1962年)
- (5) 大城宗清(編)『<琉球政府立法院図書室>戦後沖縄の文献解題 - 1961年3月31日現在 - 』(1961年)
- (6) 九学会連合沖縄調査委員会(編)『沖縄研究文献・資料目録抄』第 分冊(1971年)
- (7) 友寄英一郎(編)『琉球関係考古学文献目録』(1962年)

- (8)琉球大学付属図書館(編)『<琉球大学付属図書館>琉球郷土資料目録』(改訂増補版、1965年)
- (9)玉城盛松(編)「沖繩関係文献目録 - 1971.1~1972.未現在 - 」(沖繩歴史研究会編『沖繩歴史研究』第10号、1973年)
- (10)「沖繩歴史研究既刊論文目録(創刊号~第10号)」(沖繩歴史研究会『沖繩歴史研究』第10号、1973年)
- (11)琉球大学付属図書館(編)『沖繩関係雑誌記事索引(人文・社会編)』(1974年)
- (12)琉球政府立沖繩史料編集所(編刊)[沖繩関係文献目録](1972年)
- (13)沖繩図書館協会(編)『沖繩県郷土資料総合目録』(1973年)
- (14)沖繩県立図書館(編刊)「山下文庫蔵書目録」(『沖繩県立図書館要覧 1976年度』1977年)
- (15)那覇市立図書館所蔵「沖繩関係漢書目録」那覇市立図書館(編・刊)『館報・77』(1978年)
- (16)那覇市立図書館所蔵山田文庫目録(那覇市立図書館(編・刊)『館報・77』(1978年)
- (17)琉球大学付属図書館(編)『学内出版物論文総覧』(1977年)
- (18)石垣市市史編集室(編)『八重山関係文献目録 - 昭和58年12月末 - 』(1984年)
- (19)沖繩県沖繩史料編集所(編)『沖繩史料編集所紀要』
- (20)新城安善(編著)『沖繩書誌総覧 - 沖繩書誌の書誌 - 』(1991年)

これらの文献目録のデータ入力作業は、筑波大学における本領域研究の事務局においてとり進め、岩崎宏之が総括した。入力ならびにデータの吟味に当たったのは事務局スタッフとして協力された田村英美子、森聡美、井門直美、村松常子、工藤道子、田海幸子、新井知世の各氏である。また一部のデータは(株)アジアビジネス・コンサルタント社に輸入を依頼した。

これらのデータベースは「桐 VER.5」(管理工学研究所)で作られている。CD-ROM版の報告書でデータベースを公開する際には、利用者の便宜を配慮して「桐 VER.5」によるファイルと、テキストファイル化したものにデータフォーマットを添付したものの2つの形態での配付を考えている。またインターネットでの提供にあたっては、同様の形式での公開を行ないたいものと考えているが、その具体的な方法についてはいずれ近々に提示することになるであろう。

また本データベースでの外字の処理方法については、これがインターネットでの公開を進める必要から本領域研究のなかでも独自の方法を考えた。すなわちデータベースのフィールドとして「外字の有無」「赤嶺コード」「大漢和コード」の欄を設け、レコード中に外字がある場合は「外字の有無」に「■」印を、また「赤嶺コード」「大漢和コード」の欄にそれぞれの定められた記号を入れることにした。この記号にもとづいて本データベースの利用者がそれぞれ必要な外字を補えばよろしいわけである。以下、個々の文献目録について簡潔に解説する。

(1)沖繩県立沖繩図書館「郷土志料目録」(略称：郷土志料)

本目録は、沖繩戦で煙滅した、旧沖繩県立沖繩図書館が所蔵した郷土資料の目録(昭和四年末日現在)である。この目録について、仲西盛秀「沖繩県立沖繩図書館『郷土志料目録』について」(琉球大学短期大学部特定研究紀要『文献資料による近世沖繩の社会・文化史的研究』1979年3月)は次のように

解説している。

沖縄において郷土資料目録が体系的に編集発行されたのは、大正十三年の沖縄県立図書館編「琉球史料目録」を嚆矢とする。これ以前に「琉球史料総目録」(編者、編年不詳)、「旧慣書類目録」(編者、編年不詳)、「旧慣早見」(編者、編年不詳)、「旧琉球藩二関スル書類目録」(今西参事官編、編年不詳)、「内閣文庫所蔵琉球二関スル書類目録」(編者、編年不詳)等が発行されたが、図書館のように一般利用者を対象に資料を提供する目的で蔵書目録が発行されたのは「琉球史料目録」が最初である。この目録の発行は、県立図書館の設立が他県に比して決しておくれをとらなかつたように、岡山県戦勝記念図書館の「吉備郷土資料書目」(大正四年)、長崎県立図書館の「郷土志料目録」(大正十二年)に次いで三番目に早い時期である。真境名安興はその序文で「古今の琉球史料は日藩政の時代に於ては、之を城内評定所等に叢集して政務の参考に資せしが如きも、其書目及冊数を詳録する能はざるを遺憾とす。然るに廢藩置県のとくに際し、此等の一部分は県に引継せられ、旧慣書類目録に登録せられたるもの大部数に達すれども、中には当時県に引継ぐことを避回して、之を旧時の権門勢家の邸宅に分蔵せしむに、時代の推移と共に多くは散逸し若は虫害に逢ひしものも亦鮮しとせざるなり。而して県に於ては置県草創の時より旧慣取調係を設置して政務の一端に資する為に、此等の残簡零墨を蒐集して之が編纂及保存に努め、殊に丸岡知事の時代に至りては琉球史料六十余冊を分類編成せり。此等は実に琉球史料整理の棟梁となりて先駆を為ししものといふべく、今日にては得難きものも亦多かるべし」と述べ、之を好機として多年の宿望たりし郷土資料の目録を調整したと経緯を記している。この大正十三年版を第一版とし、昭和四年にその増補版として出た本目録が第二版である。第二版は編集上のいくたの欠点が指摘できるがこれは第三版で訂正する予定であつたらしい。しかし第三版は発行されなかつた。おそらくこのころから戦争の足音がしのびより、目録の発行どころではなくなつてきたのであろう。(中略)

ところがこれらの貴重な郷土資料も去る大戦で全て破壊しつくされ烏有に歸してしまつた。昭和十九年第五代館長に任命された城間朝教は、戦災からこれらの図書三万冊を守るため羽地村源河の山奥に資料の疎開を決めたが、この計画が実現しないうちに空襲にあい、四十年の長い歴史と伝統を誇る沖縄図書館所蔵三万冊の図書はことごとく灰燼に歸してしまつたと述懐している。「今や書架に推積充満し内外の書籍資料等殆んど網羅し尽すに至」つたこれらの文献も今となつてはほとんどがこの目録をとおしてしか我々は接することができなくなつた。

本目録のオリジナル版は謄写印刷されたものであるが、本データベースの作成にあたっては我部政男らによる『文献資料による近世沖縄の社会・文化史的研究』(琉球大学短期大学部特定研究紀要、1979年3月)に復刻掲載されたものを利用した。なお、法政大学沖縄文化研究所からも本目録が、真境名安興らによって作成された昭和4年以降の増加分(第3版)の目録草稿と合わせて復刻されている(法政大学沖縄研究所『沖縄県立沖縄図書館郷土史料目録』沖縄研究史料2、昭和57年3月15日発行)。

本目録での分類は、沖縄県立図書館独自の十進分類法により沖縄関係郷土資料を「歴史地理(900)」中の「郷土誌(900)」の部類に収め、さらに900 琉球志、991 琉球史、992 史料(日記、由来記、伝記、隨筆、古文書)、993 法制経済、994 教育宗教、995 琉球文学琉球語、996 詩文、997 書画金石文、998 科学産業統計要覧、999 雑の小部門に分けている。目録の収録数は5,970冊である。蔵書目録としては編著者名、発行者、発行年などの書誌データを欠いた不完全なものではあつても、本目録は、かつて存在した、そして復元されるべき沖縄の文化遺産としての貴重な歴史資料の痕跡として貴重なもの

である。

本データベースで設定したフィールドは次の通りである。

(1)コード番号：本データベースでのレコードの通し番号を示す、(2)分類名：本目録での分類名、分類：本目録での 990 から 999 にいたる分類を示す、(3)書名：目録に記載された書名、(4)著訳編者名：漢字表記による著者名。但し姓と名前との間のスペースは省く、(5)和暦出版年月日：目録にきさいされた出版年月日のうち和暦を本欄に入れた、(6)中国暦出版年月日：目録にきさいされた出版年月日のうち中国暦を本欄に入れた、(7)架蔵番号：目録に記載された沖縄県立図書館での架蔵番号、(8)冊数、(9)表装：形態による区分で、本目録では「和」「洋」「仮」「綴」「軸」「巻」「大」「短冊」などに区分されている、(10)備考、(11)外字有無：JIS 第1・第2水準の文字コードで表示できない外字の有無。外字は■で置き換え、外字が使われている場合は、この「外字有無」のフィールドに ■で示す、(12)赤嶺コード：■で表示された外字の赤嶺コード表における漢字コード番号を示す。なお赤嶺コードについては、本『総括班研究成果報告書』41.04 の項を参照のこと、(13)大漢和コード：■で表示された外字の諸橋轍次著『大漢和辞典』における文字コード番号を示す、(14)典拠：本データベース作成の典拠で、本件の場合は「郷土志料」と略称する、(15)データ番号：上記典拠の略称(本目録の場合は「郷土志料」で示す)とコード番号とを「-」で繋いで示したものを。

(2)国立国会図書館(編)「琉球文献目録稿」(略称：国会琉目)

典拠としたのは国立国会図書館支部上野図書館(編)『琉球文献目録稿』(昭和27年3月発行、57p)である。本目録の例言には「この目録は米国より国会図書館に琉球関係書誌を求められたのに端を発している。はじめは本館の蔵書を作ったが、序でに雑誌や新聞の記事や論文を加え、他書に引用された文献で未見のものも集めた。もとより短時日の間に編集したもので、いろいろ誤謬や遺漏も多いが、未定稿のまま印刷してこの方面の研究者の参考に資することにした」とある。この目録の資料検索には参考課の宇賀正一が当り、編集その他に神田秀夫、石川春江、朝倉春彦、村谷淑子が当たったという。また「この目録に掲載した文献は詳細にして特異なものが多く、一般図書と同一の分類法が採れないので、特殊な項目の立て方を試みた」とされ、以下の分類がなされている。

一般(一般、統計、書誌、随筆)、宗教(宗教、民間信仰、真宗、キリスト教)、歴史(歴史、史料、倭寇、日本(薩摩)と琉球、ペルリ来航、廃藩置県、台湾と琉球、朝鮮との関係、清朝との関係、考古学、伝記、地方史)、地理(案内、地誌、紀行、地図、水路図、写真・風俗画)、社会科学(法律、政治、経済、租税、社会、移民、教育、民俗一般、服装、飲食、農耕、民具、産育、成年式、結婚、葬式、年中行事、祭典、児童、俚諺、伝説昔話)、自然科学(地質、人類学、医学、数学(結縄)、気象、動植物、動物、植物)、工学(建築、土木工学・その他)、産業(産業一般、農業、蚕絲業、織物・染色、林業、糖業、牧畜、水産業、交通、貿易)、芸能(美術一般、絵画・彫刻、音楽、舞踊、演劇、陶磁器、茶道、将棋、玩具、唐手)、言語(琉球語一般、標準語問題、資料、チェンバレン・ベッテルハイム、日本語との関係・その他、音韻、語法、語彙・語源、文字、児童語、金石文、方言)、文学(文学一般、おもろ・くわいにゃ、あやご、歌謡一般、八重山民謡、奄美大島民謡、童謡、詩文集、短歌、戯曲、詩・小説)、補遺

本目録には1379タイトルが収められている。記載項目としては著者、書名、発行所、刊年を掲げ、国立国会図書館支部上野図書館蔵書については函号(蔵書番号)を示している(函号の記載が無いもの

は所蔵されていないもので未見という)、データベース作成にあたって設定したフィールドは以下の通りである。なお巻末の著者(執筆者)索引は省略した。

(1)コード番号、(2)分類、(3)項目、(4)編著者、(5)書名、(6)収録書誌名、(7)巻・号、(8)出版年、(9)出版月、(10)出版者、(11)蔵書番号、(12)摘要、(13)外字有無、(14)赤嶺コード、(15)大漢和コード、(16)典拠:「国会琉目」、(17)データ番号

(3)成城大学民俗学研究室(編・刊)『南島文献資料目録』(昭和34年7月31日発行、非売品、孔版印刷)[略称:成城南島]

成城大学民俗学研究室(編・刊)『南島文献資料目録』(昭和34年7月31日発行)を典拠とするデータベースである。本目録収録の資料は、柳田国男氏が多年にわたって収集された南島関係の文献で、現在は成城大学民俗学研究所の蔵書となっている。目録は「単行本の部」と「雑誌の部」に分けて作られている。データベースの作成にあたっては、目録のうち「単行本の部」を[成城単行.tbl]、「雑誌の部」は[成城雑誌.tbl]として作成した。「単行本の部」の目録は著者、書名、発行所、刊行年次、版型、頁数が記され、一部については内容の細目が付されている。「雑誌の部」の目録の記載は筆者、論文名、雑誌名、巻号数、刊行年次、版型、頁数の順で、版型のcmは縦長を示す。分類はおおまかに以下の分類表にしたがっている。

[単行本の部]総記、歴史、伝記、自然、社会、工芸、芸能、言語、文学、民間文芸、歌謡、信仰、雑誌・書目、その他

[雑誌の部]総記、歴史、古記録、探訪記、書評、住居、服飾、食制、民具、生業、交通、村制、産育、婚姻、葬制、年中行事、芸能、児童、言語、命名、諺、歌謡、昔話、伝説、信仰、霊呪、考古、人類、自然

本データベースは次のフィールドを設定した。

(1)区分:単行本・雑誌の区分を示す、(2)コード番号、(3)分類、(4)著者名、(5)書名、(6)発行所、(7)発行年、(8)発行月、(9)版型(cm):単行本の場合の版型をcmで表す、(10)頁数、(11)収録書誌名:論文等の掲載・収録雑誌名・書名を示す、(12)収録書掲載ページ、(13)備考、(14)外字有無、(15)赤嶺コード、(16)大漢和コード、(17)典拠:「成城南島」で示す、(18)データ番号

(4)琉球大学[琉球文献目録](略称:琉球文献)

George H.Kerr(Honolulu Academy of Arts)による琉球関係文献の目録で、琉球大学が1962年に発行した『琉球文献目録』(『BIBLIOGRAPHY OF THE RYUKYUS』、琉球大学発行、1962年8月20日、118p、編者代表:比嘉春潮)を典拠とする。

本書発行の経緯について、編者の比嘉春潮は、序文で以下のように記している。

1952年、Kerr博士が来日、琉球文献目録の作製に従事されたとき、私も他の諸君と共にお手伝をすることができた。私はその間に幾多未見の文献の所在を知ることができ、自分の沖縄研究の視野を大きく広くすることもでき、博士の学問的業績からその利益を受けた最初の者であることを知り、博士に對し忘るべからざる感謝の念を持つものである。

数か月の後、A Ryukyu Bibliography - A preliminary Checklist of Reference Materials が出来上がった。従来1、2の類書がないでもなかったが、この書のように広汎に且つ多数の資料を盛られた

ものはなく、本書が研究者に貢献するところ大なるは必然であった。ただミメオグラフ印刷であり、発行部数の少ないことが遺憾であった。

この書は著者別の排列であったが、博士は引き続き項目別に編集を改められ、そのカードを私に送られた。私はそれを検討したが、それに何物も加えるものはなかった。

一方、この書の公刊にあたり高里良薫氏の名を忘れることはできない。Kerr 博士のこの業績を高く評価された文部省の高里良薫氏は、その学界への公開を企図されたが、幸いに安里琉大学長の協力を得て、遂にアジア財団の補助のもとに琉大から出版の運びとなったのである。刊行が決定するとカー博士は、その項目別排列に更に新しい検討を加えられ、今日見るような文献目録となった。

このような成立の経緯から、本書の前半には G.H.Kerr 博士による THE RYUKYU ISLANDS - A Reference of Japanese-Language Materials とその邦訳、英文版目録が収められ、後半に邦語での「琉球文献目録」が付されている。

「琉球文献目録」の分類(目次)と配列は以下の通りである。

- . 書誌、記録(解説、目録、定期刊行物)
- . 自然科学(1.地質学および地誌学、2.火山学、地震学、3.気象学)
- . 記録、解説、報告、書簡(1.南島、2.琉球、3.沖縄、4.先島、5.悪石島、6.大東島、7.鳩間島、8.伊江島、9.伊平屋島、10.喜界島、11.久米島、12.黒島、13.沖永良部島、14.大島(奄美大島)、15.ラサ島、16.種子ケ島、17.徳之島、18.鳥島、19.屋久島、20.雑
- . 人類学、人種学
- . 社会生活、社会組織(1.文化、2.社会組織・風俗・習俗、3.沖縄の婦人、4.村落・家族と個人<生活団体>)、5.慣習・装飾・食事、6.祭礼・儀礼、7.娯楽・遊戯、8.民族説話と伝説、9.童話<新聞切抜>、10.諺と卜占)
- . 宗教(1.一般、2.仏教、3.基督教)
- . 言語研究および関連事項(1.一般、2.比較および分析研究、3.方言と方言研究、4.語彙・辞書、5.特殊語研究、6.地名・人名・命名法)
- . 文学(1.一般、2.伝統・説話・小説、3.詩論および詩歌)
- . 歌謡、民謡
- . 舞踊、戯曲
- . 音楽
- . 美術、工芸(1.一般、2.絵画、3.織物、4.漆器、5.陶器、6.建築、建築術)
- . 考古学、史前学
- . 歴史(1.一般、2.外国関係、3.統治、4.薩摩・琉球の関係)
- . 伝記(1.伝記、2.系譜)
- . 統治と行政(1.古琉球、2.現代沖縄<1945年まで>、3.地方行政、4.土地制度、5.財政・税制、6.企画・改革・変更、7.人口調査・統計)
- . 経済(1.一般、2.交通、3.貿易・商業・財政、4.生産と経済危機、5.農業、6.砂糖生産、7.雑農業、8.林業、9.漁業海産、10.鉱業と鉱産)
- . 公衆衛生および医術
- . 教育

. 絵画

本データベースで設定したフィールドは以下の通りである。

(1)コード番号、(2)分類コード、(3)分類、(4)項目、(5)編著者、(6)表題、(7)収録誌(書)名、(8)単行書、(9)叢書名、(10)巻・号、(11)ページ、(12)発行年(和暦)、(13)発行年(西暦)、(14)所蔵機関、(15)発行者、(16)備考、(17)外字有無、(18)赤嶺コード、(19)大漢和コード、(20)典拠：「琉球文献」で示す、(21)データ番号

(5)大城宗清(編)『<琉球政府立法院図書室>戦後沖縄の文献解題 - 1961年3月31日現在 - 』(1961年7月3日発行、琉球政府立法印事務局、160p)(略称：戦後文献)

この目録は、琉球政府立法院図書室所蔵の郷土資料、特に戦後・沖縄関係文献を中心とした目録で、1961年3月末日までに収集できた戦後沖縄の文献約950冊、戦前の郷土資料約250冊、合計1200冊が収録され、各資料に簡単な解説を付し、当図書室に所蔵していない戦後文献にはその所在が明示されている。分類は「戦後沖縄の文献」資料分類法によって分類もろくの記述はNCR(日本目録規則)1962年版を準用して原則として 標目(大体は編著者、分類番号)、書名、著者表示、出版地、出版者、出版年、頁数、大きさ、注記、の順に記載されている。また、目録の記述に続いて若干の解説が記されているが、本データベースでは割愛した。

「戦後沖縄の文献」資料分類法は以下の通りである。

「沖縄県郷土資料分類表」

S0 総記(S00 総記、S01 図書館、S02 図書・書誌学、S03 百科事典、S04 論文・講演集・雑書、S05 逐次刊行書・雑誌、S06 学会・博物館、S07 新聞・新聞学、S08 叢書・全集)

S1 哲学・宗教(S10 哲学、S14 心理学、S15 倫理学、S16 宗教・社寺・仏教・他、

S2 歴史(S20 歴史、S21 通史、S22 文化史・渉外史、S23 上代<~英祖王統>、S24 中世<察度 1350~1608>、S25 近世<慶長の役 1609~1878>、S26 近代<廃藩置県 1879~>、S27 史料、S28 伝記・系譜・人名録、S29 地誌、S299 案内記・地図・絵図・写真集、

地方区分(0 琉球・沖縄群島、1 都市地区<那覇市>、2 沖縄南部<島尻郡>、3 沖縄中部<中頭郡>、4 沖縄北部<国頭郡>、5 先島・宮古群島、6 先島・八重山群島、7 奄美大島群島、8 その他)

S3 社会科学(S30 社会科学、S302 一般事情<政治・経済・文化諸事情>、S304 社会時評・文明批評、S31 政治、S310 政治<公報・公文書・その他>、S32 法律、S321 行政作用法・他<布告・布令等>、S322 民法<琉球政府法令>、S330 経済、S331 経営・経済一般、S334 人口・移民問題、S338 金融・銀行・保険、S34 財政、S35 統計<官公庁の現勢要覧を含む>、S36 社会・労働、S360 社会、S361 社会政策・社会事業、S366 労働問題、S37 教育、S38 民俗・風俗習慣)

S4 自然科学(S40 自然科学、S41 数学、S42 物理学、S43 化学、S44 天文学、S45 地質学・地理学、S46 生物学・人類学、S47 植物学、S48 動物学、S49 医学・薬学)

S5 工学・工業(S50 工学・工業、S51 土木工学、S52 建築学、S53 機械工学、S55 海事工学、S56 採鉱・冶金学、S57 化学工業、S58 食品その他の工業<糖業>、S59 家事)

S6 産業(S60 産業、S61 農業、S62 園芸・造園、S63 蚕糸業、S64 畜産・獣医学、S65 林業、S66 水産業、S67 商業<倉庫・貿易>、S68 交通、S69 通信)

S7 芸術(S70 芸術<文化財一般を含む>、S71 彫刻、S72 絵画・書道、S73 版画、S74 写真・印刷、S75

工芸美術、S76 音楽・舞踊、S77 演劇・映画、S78 運動競技、S79 遊芸・娯楽)

S8 語学(S80 語学、S81 日本語<琉球方言>、S82 関連諸言語)

S9 文学(S90 文学一般、S91 日本文学<琉球文学>、S92 日本文学<現代>、S93 その他諸国文学)

文学形式区分(0 理論・文学史、1 詩歌<歌謡>、2 戯曲<組踊>、3 小説<物語>、4 随筆・小品、日記・紀行、5 記録<沖縄戦記>・報告文学、6 書簡)

本目録出版の事情について、編者は「あとがき」に「昨年二月刊行の『戦後・沖縄関係雑誌記事索引及び資料文献(解題)』を改訂増補の上、完成させる積りでしたが、資料の収集・文献カードの整備等に以外に時日を要してその余裕がなく、戦後沖縄関係文献を中心とした「解題目録」を作成したにとどまった。その上、資料の収集・整備に当りながらの編集で、時間的な制約もあり、目録編成上の不備不統一を免れなかった。以上の点については、将来の補正を期し、とりあえず - 沖縄問題がクローズ・アップされつつある今日 - 実際の利用者に、幾らかでも役立つことを念願して、出版することにした」と記している。

本データベース作成にあたって設定したフィールドは以下の通りである。なお、本目録巻末に付せられた「書名索引」ならびに追補として付せられた「現行官公庁刊行物目録」は割愛した。

(1)コード番号、(2)分類、(3)分類記号、(4)分類項目、(5)書名、(6)編著者名、(7)出版者、(8)出版地、(9)出版年(西暦)、(10)出版年(和暦)、(11)ページ数、(12)数量、(13)大きさ(cm)、(14)掲載資料・シリーズ名、(15)注記、(16)外字有無、(17)赤嶺コード、(18)大漢和コード、(19)典拠：「戦後文献」で示す、(20)データ番号

(6)九学会連合沖縄調査委員会(編)「沖縄研究文献・資料目録抄」(略称：九学会)

本データベースは、1971年(昭和46年)当時実施された九学会連合による沖縄総合調査の際につくられた沖縄関係文献・資料の目録のうち、日本言語学会、日本宗教学会、日本心理学会の3学会による下記の目録に依拠している。典拠とした文献目録は、九学会連合沖縄調査委員会(編)『沖縄研究文献・資料目録抄』第 分冊(1971)、日本言語学会・日本宗教学会・日本心理学会、1971年3月30日発行、孔版、である。本目録は上記3学会による目録をあわせたもので、日本言語学会による言語学関係文献21ページ分、と日本宗教学会による「沖縄関係文献一覧」(孔版、53p)、また日本心理学会「沖縄関係文献一覧」(孔版、3p、収録データは38タイトル)からなる。収録データは1171タイトルである。本データベースで設定したフィールドは下記の通りである。

(1)コード番号、(2)分類、(3)発行年(和暦)、(4)発行年(西暦)、(5)編著者、(6)表題、(7)収録誌(書名)、(8)単行書、(9)叢書名、(10)巻・号、(11)ページ、(12)所蔵機関、(13)発行者、(14)備考、(15)注記、(16)外字有無、(17)赤嶺コード、(18)大漢和コード、(19)典拠：「九学沖縄」で示す、(20)データ番号

(7)友寄英一郎(編)『琉球関係考古学文献目録』(株式会社小宮山書店、昭和37年4月15日発行、タイプ印刷、B5版、158p)

この目録は1961年(昭和36年)以前の琉球関係考古学文献を綜覧し、奄美・薩南諸島の分も若干収

め、沖縄諸島と奄美・薩南諸島の二部に分けて掲載雑誌ごとに排列してある。記載の順序は書名、備考欄、編集者、発行所、発行年などで、考古学研究と密接な関係にある民族学関係文献なども若干含まれている。収録数は946タイトルである。本データベースで設定したフィールドは下記の通りである。

(1)コード番号、(2)区分、(3)編著者名、(4)書名、(5)巻・年・版次、(6)発行者、(7)出版年(西暦)、(8)出版年(和暦)、(9)掲載資料・叢書名、(10)注記、(11)外字有、(12)赤嶺コード、(13)大漢和コード、(14)典拠：「琉球考古」で示す、(15)データ番号

(8)琉球大学付属図書館(編・刊)『琉球大学付属図書館 - 琉球郷土資料目録』(改訂増補版、1965年7月31日現在)

琉球大学付属図書館は1957年に『琉球郷土資料目録 改訂増補版』を発行した。この目録に収録された資料の点数は図書1,000余点、マイクロフィルム29,000齣でしかなかったが、その後ロックフェラー財団、国立国会図書館、南方同胞援護会、E.R.Bull氏らの援助と、東京大学、台湾大学、ハワイ東西文化センター、鹿児島大学、鹿児島県立図書館、ハワイ大学坂巻駿博士、八重山石垣市宮良当智氏らの協力によって資料の充実がすすめられ、1966年版『琉球郷土資料目録 改訂増補版』を発行するまでには図書5134点、マイクロフィルム132,874齣の多きに達したという。ここには伊波普猷文庫、島袋源七文庫、E.R.Bull文庫、宮良殿内文庫、宝玲文庫複写本、沖縄タイムス・マイクロフィルム版等の貴重な資料が含まれており、琉球資料の復元に関係者の非常な努力が注がれていたことが感じられる(1966年版『琉球郷土資料目録 改訂増補版』序文)。このような郷土資料の充実をうけて、1966年版『琉球郷土資料目録 改訂増補版(1965年7月31日現在)』(1966年6月発行、B5版、331+123p)が発行され、さらに1979年2月にはその復刻版が出された。

目録の凡例によれば、1966年版『琉球郷土資料目録 改訂増補版(1965年7月31日現在)』は、1965年7月31日現在において整理を完了したものが収録され、収録標目及び冊数は和漢書:2597 標目 4531冊、洋書:409 標目 603冊、総計3006 標目 5134冊という。分類は「日本十進分類法・新訂6A版」に準じた「琉球郷土資料分類コード」によるが、特に異なる箇所は

総記 - 090.....「史料群」として主題別に細区分する。

歴史 - 200.....「琉球歴史一般」とする。

210~270「歴史地方区分」とする。

地誌 - 291.....「290」に置き換える。

291~297「地誌地方区分」とする。

語学 - 800.....「琉球語一般」とする。

文学 - 900.....「琉球文学一般」とする。

地方区分(0 琉球全般、1 国頭郡(北部地区)、2 中頭郡(中部地区)、3 島尻郡(南部地区)及び那覇(首里、真和志、小祿)、4 宮古郡、5 八重山郡、6 :奄美大島郡島及び鹿児島、7:その他)

戦後の沖縄では、琉球関係郷土資料の収集が多くの場合マイクロフィルムによって行なわれた。本目録では、マイクロフィルムによって収集された資料は「M-***」の請求記号が付されている。また「p***」はパンフレット請求記号を示している。なお「M-***」の請求記号によって示されるマイクロフィルム資料については別に「琉大マイ」のデータベースを作成した。

本目録には、編著者名、書名、発行記事等の目録記事のほか、各編・章のタイトル、記事細目、掲載図版など内容に関する詳細な解説が付されていることを特徴としているが、マイクロフィルム資料のみについて別途「琉大マヨ」データベースに収録し、他は割愛した。本データベースの作成にあたって設定したフィールドは以下の通りであるが、「琉大マヨ」データベースの「内容」の記事の文字数が多いものについては、便宜上「内容」「内容2」「内容3」に振り分けた。

(1)コード番号、(2) : 本目録で付せられた各タイトルの一連番号、(3)分類 (4)分類、(5)分類項目、(6)請求記号、(7)編著者名、(8)書名、(9)巻・年・版次、(10)出版地、(11)出版者、(12)出版年(西暦)、(13)出版年(和暦)、(14)出版年(中国暦)、(15)ページ数、(16)数量、(17)サイズ(cm)、(18)フィルムコマ数、(22)掲載資料・叢書名、(24)備考、(25)外字有無、(26)赤嶺コード、(27)大漢和コード、(28)典拠:「琉大郷土」で示す、(29)データ番号

また「琉大マヨ」データベースでのフィールドの設定は以下の通りである。

(1)コード番号、(2)請求記号、(3)書名、(18)フィルムコマ数、(19)内容、(20)内容、(21)内容、(25)外字有無、(26)赤嶺コード、(27)大漢和コード、(28)典拠:「琉大郷土」で示す、(29)データ番号

(9)玉城盛松(編)「沖縄関係文献目録 - 1971.1~1972.未現在 - 」(沖縄歴史研究会編『沖縄歴史研究』第10号、1973年5月30日発行)(略称:玉城文献)

沖縄歴史研究会(編)『沖縄歴史研究』第10号(1973年5月30日発行)に掲載された玉城盛松(編)「沖縄関係文献目録 - 1971.1~1972.未現在 - 」によるデータベースである。1971年1月から翌72年末に至る時期に刊行された約430点の沖縄関係文献の文献目録で、「小冊子、1枚もの(地図、書画、写真図画等)および新聞、雑誌類は除外し、琉球政府(沖縄県)刊行物も紙数の都合で一部を除き割愛」した、主として単行書が収録されている。しかし、沖縄県立図書館史料編集室紀要の文献目録に先行するものとして注目される文献目録である。ここには* * タイトルの文献が収録され、書名、編著者、発行所、出版年の順で記述されている。分類はおおよそ日本十進分類法に準拠している。データベース化にあたって設定したフィールドは以下の通りである。

(1)コード番号、(2)分類、(3)書名、(4)編著者、(5)発行所、(6)出版年、(7)出版月、(8)典拠:「玉城文献」で示す、(9)データ番号

(10)沖縄歴史研究会「沖縄歴史研究既刊論文目録」(『沖縄歴史研究』第10号、1973年5月30日発行)

沖縄歴史研究会『沖縄歴史研究』第10号(1973年5月30日発行)に掲載された「沖縄歴史研究既刊論文目録」(創刊号~第10号)による。沖縄歴史研究会『沖縄歴史研究』は1965年10月に創刊、不定期ながらほぼ年2回刊行を続けたが、その創刊号から第10号まで、別冊を含めて11冊の『沖縄歴史研究』に掲載された論文・書評等の目録である。第10号までの同誌の既刊号は次の通り。

創刊号 1965年10月刊

第2号 1966年5月刊

第3号 1966年11月刊

- 第4号 1967年7月刊
- 第5号 1968年2月刊
- 第6号 1968年12月刊「近・現代史特集」
- 第7号 1969年9月刊
- 別冊 1970年5月刊「近代沖縄の歴史と民衆」
- 第8号 1970年9月刊
- 第9号 1971年3月刊「隣接諸科学の研究の現状と課題特集」
- 第10号 1973年5月刊

なお、この第10号には、玉城盛松(編)「沖縄関係文献目録 - 1971.1~1972.末現在 - 」が掲載されており、別途、略称「沖縄関係」としてデータベース化を図った。沖縄歴史研究会「沖縄歴史研究既刊論文目録」(創刊号~第10号)のデータベース化にあたって設定したフィールドは以下の通りである。(1)コード番号、(2)論文名、(3)著者名、(4)号、(5)備考、(6)外字有無、(7)赤嶺コード、(8)大漢和コード、(9)典拠:「沖縄研究」で示す、(10)データ番号

(11) 琉球大学付属図書館編『沖縄関係雑誌記事索引(人文・社会編)』(1974年11月1日刊、タイプ印刷、B5版、291p)

琉球大学付属図書館編『沖縄関係雑誌記事索引(人文・社会編)』(1974年11月1日刊、タイプ印刷、B5版、291p)にもとづくデータベースである。琉球大学付属図書館が1971年12月31日までに受入れた雑誌及び国立国会図書館の雑誌記事索引から調査した沖縄関係記事の索引で、地理的収録範囲は沖縄県全域と鹿児島県奄美大島群を対象としている。

各記事の記載は著者名、論題、所載雑誌名、巻号、発行年月の順で、本目録には7,68タイトルが収録されている。分類は国立国会図書館の「雑誌記事索引」に準拠して0.総記、1.政治・行政、2.法律、3.経済、4.社会、5.労働、6.教育・文化、7.哲学・宗教、8.歴史・地理、9.文学・語学、10.芸術・芸能・スポーツ、11.奄美大島に分けられている。本データベースでの記載項目のフィールドは以下の通りである。

(1)コード番号、(2)分類、(3)項目、(4)著者名、(5)論題、(6)所載雑誌名、(7)巻号、(8)発行年(西暦)、(9)発行年(和暦)、(10)発行月、(11)発行日、(12)所蔵:目録発行時における琉大付属図書館での所蔵(郷土資料室、雑誌室、所蔵せず)の状況を示す、(13)備考、(14)メモ:本目録のデータベース化にあたって記したメモ記事、(15)外字有無、(16)赤嶺コード、(17)大漢和コード、(18)典拠:「琉大雑誌」で示す、データ番号

(12) 琉球政府立沖縄史料編集所(編刊) [沖縄関係文献目録] (略称:沖編文献)

沖縄史料編集所が琉球政府時代の1972年(昭和47年)3月に発行した文献目録で、ここには沖縄史料編集所が収集した沖縄関係文献が収められている。しかし「沖縄関係の重要文献は、現地沖縄には少なく、したがって各地に散在する文献資料を写真複製によって収納したものがほとんど」(まえがき)で、「単行本の部」と「雑誌の部1」「雑誌の部2」とからなるが、本データベースでは「単行本の部」は割愛した。

「雑誌の部1」は沖縄関係論文のみを複写したもので、目録記載の順序は筆者名、論文名、所載誌

名、巻号、刊行年月、また「雑誌の部2」では「おきなわ」「琉球」「沖縄文化」(後に「文化沖縄」と改題)「沖縄文化」「月刊文化沖縄」「国頭青年」「沖縄教育」「琉球教育」など各雑誌ごとの目次細目録が収録されている。

(1)コード番号、(2)区分:雑誌の部・の区分を示す、(3)編著者名、(4)表題、(5)表題、(6)収録誌(書名)、(7)巻号、(8)発行年(和暦)、(9)発行年(西暦)、(10)発行月、(11)発行者、(12)テーマ(特集):雑誌の特集テーマなどを示す、(13)備考、(14)外字有無、(15)赤嶺コード、(16)大漢和コード、(17)典拠:「沖編文献」で示す、(18)データ番号

(13)沖縄図書館協会(編)『沖縄県郷土資料総合目録』(昭和48年3月20日発行)(略称:「県図郷土」)

昭和48年3月に沖縄図書館協会(協会長:大宜見朝恒)が創始記念事業として完成した『沖縄県郷土資料総合目録』(昭和48年3月20日発行、新星図書、**p)をもとにした沖縄県関係郷土資料のデータベースで、6924タイトルが収録されている。目録の編集委員は大城宗清(事務局長、沖縄県立図書館)、新城安善(琉球大学附属図書館)、富島壯英(沖縄県議会図書室)、玉城盛松(沖縄県立図書館)の各氏で、岸本絢子氏(事務局囑託)が編集書記をつとめたという。本目録は琉球大学図書館、沖縄史料編集室、沖縄県議会図書室、沖縄県立図書館及び国立国会図書館に所蔵する郷土資料23,500余点(タイトル数6924)を収録したものである。目録の凡例に記された所蔵館は 国立国会図書館、琉球大学附属図書館、沖縄県立図書館(東恩納文庫)、沖縄史料編集所、沖縄県議会図書室、那覇市史編集室の6館であるが、国立国会図書館については『琉球文献目録稿』(昭和27年)及び沖縄関係邦文文献目録(『国立国会図書館月報』第78・79・102・103各号)に所載する分のみが収録されている。

本目録に収められている資料は「昭和47年3月1日までに調査のできた図書、古文書、雑誌またはこれに準ずる形態」の沖縄関係郷土資料で、分類は「沖縄県郷土資料分類表」によって分類され、記載形式は タイトル番号(本目録における一連番号)、書名、編著者名、出版地(市町村名)、出版者、出版年、頁数、大きさ、注記、所蔵館、の順序で記述されている。書名には必要に応じて副書名、巻次、年度などが付記されている。出版者と編著者が同一のばあいは、出版者の記載は省略されている。また出版年は西暦で表記され、1868年以前のものには(日本年号)、(中国年号)が括弧内に補記されている。なお所蔵機関名は以下のように略記されている。

国立国会図書館:国会

沖縄県議会図書室:県会

沖縄県立図書館:県立、東恩納文庫:県立(東)

那覇市史編集室:那史、沖縄史料編集所:沖史、

琉球大学附属図書館:琉大

E.R.Bull 文庫:琉大(B)

宝玲文庫(複写本):琉大(宝)

伊波普猷文庫:琉大(伊)

宮良殿内文庫:琉大(宮)

島袋源七文庫:琉大(島)

仲原善忠文庫:琉大(仲)

「沖縄県郷土資料分類表」

総記(K00 総記、K01 図書館、K02 図書・書誌学、K025 郷土書目・郷土資料目録、K029 蔵書目録、K03 百科事典、K04 一般論文集・講演集・雑書、K05 逐次刊行物・雑誌、K06 学会・博物館、K07 新聞、K08 双書・全集、K09 特殊資料)

哲学(K10 哲学、K12 思想、K14 心理学、K15 倫理学・道徳、K16 宗教、K17 神道、K18 仏教、K19 判
卜教)

歴史(K200 歴史総記、.1 史学・史観、.2 考古学・金石文、.3 書誌・年表・歴史地図、.4 論集・史論・
史話・史評・雑記、.5 逐次刊行物、.8 資料・日記・古文書、K201 沖縄全史<通史・文化史>、K202 ~K205
上代~近世<時代区分をする>、K206 近代<1868 ~>、K207 戦後<1945 ~>、K21 沖縄北部<国頭郡>、K22
沖縄中部<中頭郡>、K23 沖縄南部<島尻郡>、K24 宮古郡、K25 八重山郡、K26 奄美大島諸島、K27 そ
の他、K28 伝記・叢伝・人名録、K288 系図・家譜、K289 個人の伝記、K29 地誌、K299 案内記・地図・
絵図・写真集)

社会科学(K30 社会科学、K302 一般事情<政治・経済・社会・文化・諸事情>、K304 論集・社会時評、K305 逐
次刊行物、K31 政治、K311 統治・帰属問題、K312 政治史・政治事情<基地問題を含む>、K314 議会、K315
政党、K316 人権問題・階級問題、K317 行政一般<公報はここに収める>、K318 市町村行政<市町村の現
勢要覧はここに収める>、K32 法律、K322 法制史、K323 統治法<布令・布告はここに収める>、K324 民
立法<琉球政府法令・沖縄県令規類はここに収める>、K325 司法・判例集、K33 経済、K331 経済学、K332
経済史・経済事情、K333 経済政策、K334 人口・移民、K335 企業・経営、K337 通貨・物価、K338 金融・
金融機関、K339 保険、K34 財政、K342 財政史、K343 財政政策・財務行政、K344 予算・決算、K345 租
税、K347 公有財産、K348 市町村財政、K35 統計、K358 人口統計・国勢調査、K36 社会、K362 社会史、
K364 社会保障・社会保険、K365 生活問題、K366 労働問題、K367 家庭・婦人問題、K369 社会福祉<社
会事業>、K37 教育、K371 教育学、K372 教育史・教育事情、K373 教育制度・教育行財政、K374 学校経
営・学校管理、K375 学習指導法・教育課程、K376 幼児・初等・中等教育、K377 大学・高等・専門教育、
K378 特殊教育、K379 社会教育、K38 民俗学・風俗習慣、K382 民俗誌・風俗史、K383 衣食住の習俗、
K384 社会・家庭生活の習俗、K385 冠婚葬祭、K386 祭礼・年中行事、K388 伝説・昔話<民話>、K389 民
族学<文化人類学>、K39 国防・軍事)

自然科学(K40 自然科学一般、K41 数学、K42 物理学、K43 化学、K44 天文学、K45 地学、K451 気象、
K452 海洋・陸水、K453 地震、K454 地形・岩石・鉱物学、K46 生物学、K469 人類学、K47 植物学、K48 動
物学、K49 医学・衛生、K499 薬学)

工学・工業(K50 工学一般、K51 土木工学・都市工学、K52 建築学、K53 機械工学・電気工学、K55 海 事
工学<船舶・航海>、K56 鉱業<採鉱冶金学>、K57 化学工業、K58 製造工業<木工業・繊維・食品等>、K59 家
事<生活科学・家政学>)

産業(K60 産業一般、K61 農業、K62 園芸・造園、K63 蚕糸業、K64 畜産・獣医学、K65 林業、K66 水産
業、K67 商業、K678 貿易・関税、K68 交通、K688 観光事業、K69 通信)

芸術・美術(K70 芸術一般、K709 文化財一般、K71 彫刻、K72 絵画・書道、K73 版画・印章、K74 写真、
印刷、K75 工芸、K76 音楽・舞踊、K77 演劇・映画、K78 体育・スポーツ、K79 諸芸・娯楽)

語学(K80 言語学・方言一般、K81 沖縄北部<国頭郡>の言語、K82 沖縄中部<中頭郡>の言語、K83 沖縄
南部<島尻郡>の言語、K84 宮古郡地方の言語、K85 八重山郡地方の言語、K86 奄美大島諸島の言語、

K87 その他諸言語)

文学(K90 文学一般、K909 児童文学、K91 詩歌<短歌・俳句・詩>、K911 琉歌、K912 古謡<おもろはここに収める>、K919 漢詩文、K92 戯曲・組踊、K93 小説・物語、K94 随筆・小品・感想文、K95 日記・紀行書簡、K96 記録・手記<沖縄戦記はここに収める>)

本目録のデータベース化にあたって設定したフィールドは、以下の通りである。また、巻末の書名索引は省略した。

(1)コード番号、(2)分類、(3)分類番号、(4)項目、(5)書名、(6)編著者、(7)出版者、(8)出版地、(9)西暦出版年、(10)和暦出版年、(11)中国暦出版年、(12)ページ数、(13)版型(cm)、(14)冊・枚数、(15)備考：、(16)マイクロフィルム、(17)冊数、(18)枚数、(19)所蔵機関、(20)外字有無、(21)赤嶺コード、(22)大漢コード、(23)典拠：「県図郷土」で示す、(24)データ番号

(14) [沖縄県立図書館所蔵山下久四郎文庫目録]

沖縄県立図書館(編刊)『沖縄県立図書館要覧 1976年度』(1977年12月26日発行)に掲載された「山下文庫蔵書目録」による山下久四郎旧蔵沖縄関係図書目録データベースである。山下久四郎は三重県志摩郡阿児町安乗の出身で、日本糖業日報社社長。山下氏の沖縄県や鹿児島県嘱託在勤中に収集された戦前戦後期の沖縄県の糖業や農業関係の書籍・資料類で、昭和51年に氏から沖縄県立図書館に寄贈された。内容は沖縄・奄美大島を中心とした糖業関係資料308点486冊、その他の郷土資料298点419冊及び一般資料18冊(点)、合計624点923冊で、琉球王府の「砂糖座日記」「砂糖座日記」や沖縄県砂糖同業組合『糖業彙報』「沖縄振興計画関係資料」など貴重な文献資料を含む。なお山下文庫については、「沖縄糖業関係資料展々示目録」(1976年6月3日刊、孔版)及び「山下文庫新収書資料目録」(1976年10月5日刊、孔版)があるが、両者とも本目録に吸収されている。目録での資料の配列は「沖縄県立図書館郷土資料分類表」に準拠し、当文庫の蔵書構成上から「甘蔗糖業」が独立されている。分類・項目は以下の通りである。

[糖業関係資料]

糖業総記(糖業論、歴史・事情、参考図書(要覧)、雑誌(逐刊物)、年鑑・統計書、団体・組合、共進会、糖業試験場) 糖業政策(政策・行政、法律、糖業改良・更正、財政・補助金) 糖業経済・経営(総記、市場・価格(関税・消費税)、需給・消費、経営・経済) 甘蔗製糖(総記、原料問題、生産費、品質管理・検査、製糖工程、工場・機械・設備) 甘蔗作物(品種、栽培、肥料、病虫害、蔗園管理・経営)

[一般郷土資料]

総記(雑誌・博物館・新聞) 哲学(倫理・宗教) 歴史(伝記・人名録、地誌(案内記・地図)) 社会科学(総記、政治(統治問題・政党)、行政一般(県勢要覧)、市町村行政(郡市町村勢要覧)、法律、経済、財政、統計、社会、教育、民俗) 自然科学(気象・地質) 産業(総記(振興計画)、農業、園芸、蚕糸業、畜産業、林業、水産業、商業(貿易)、交通(海運・観光)) 芸術・美術(文化財・写真・工芸・芸能) 文学

典拠目録の記載は書名、編著者、発行所、大きさ(cm)、頁(枚)であるが、データベース化にあたって下記の様なフィールドを設定した。

(1)コード番号、(2)大分類、(3)分類、(4)項目、(5)書名、(6)編著者、(7)発行所、(8)刊年、(9)大き

さ(cm)、(10)頁(枚)、(11)備考、(12)外字有無、(13)赤嶺コード、(14)大漢和コード、(15)典拠：「山下文庫」で示す、(16)データ番号

(15)那覇市立図書館所蔵「沖縄関係と漢書目録」(略称：「那覇市図」)

本データベースは、那覇市立図書館(編・刊)『館報・77』(昭和53年3月31日発行、86p)に収録された「沖縄関係と漢書目録」(郷土資料)に依っている。『館報・77』に掲載された那覇市立図書館の「おいたち」によれば、現在の那覇市立図書館は、「1947年3月31日沖縄民政府志喜屋知事より琉球列島米国民政府宛申請されていた図書館設置が認可され、同年4月19日まず石川分館が設置された。同年8月9日沖縄中央図書館(本館館長城間朝教)が知念民政府構内コンセット1棟を借りて開館し(後に那覇市内に移転し那覇琉米文化会館となる=本館の前身)」たという。本館の前身である沖縄中央図書館は、武徳殿跡、天妃校跡、那覇税務所構内(松尾)と各地を転々とし、1951年崇元寺跡に木造瓦葺平家468平方メートルが米軍予算で建築され、名称も文化情報会館から那覇琉米文化会館(館長城間朝教)と変り、昭和47年5月、沖縄の日本復帰にともなってこの施設は日本政府によって米国から買い取られ、那覇市に無償譲渡されて「那覇市立那覇文化センター」として同年11月に再開館、さらに昭和50年8月那覇市教育委員会の所管に移管されて「那覇市立図書館」となったという。このような成立の事情によって、同館には沖縄中央図書館、那覇琉米文化会館以来の沖縄関係郷土資料が襲蔵されてきた。本目録は「旧那覇文化センターを経て那覇市立図書館に所蔵されている沖縄関係図書、マイクロフィルム、ならびに、昭和53年2月末日までに受入れが済んだ総ての沖縄関係と漢書の目録」で、昭和48年に那覇市在住の山田有幹氏から寄贈された沖縄関係郷土資料「山田文庫」や「歴代宝案筆写本」などが含まれている。郷土資料の分類は概ね日本十進分類法に準拠して下記のように分けられている。

000 総記、100 哲学(哲学、心理学、倫理学、宗教)、200 歴史(歴史、伝記、地理、紀行)、300 社会科学(政治、法律、経済、経営、統計、社会、民俗、軍事)、400 自然科学(数学、自然科学、医学)、500 工学(工学、工業、技術、家事)、600 産業(農林業、水産業、商業、交通)、700 芸術(美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽)、800 語学、900 文学、[特種コレクション]山田有幹文庫郷土資料目録、歴代寶案、マイクロフィルム目録

なお、同図書館所蔵の特殊コレクションである「山田有幹文庫郷土資料目録」、「歴代寶案」(筆写本)は分離して「那覇市立図書館所蔵山田有幹文庫」(那覇市図山田)、「那覇市立図書館所蔵歴代寶案写本」(那覇市図宝案)としてデータベースを作成した。本データベースには**タイトルが収められている。データベースを作成するにあたって設定したフィールドは以下の通りである。

(1)コード番号、(2)分類番号、(3)分類、(4)表題、(5)編著者名、(6)出版地、(7)出版者、(8)出版年、(9)ページ数、(10)版型(cm)、(11)摘要、(12)備考、(13)外字有無、(14)赤嶺コード、(15)大漢和コード、(16)典拠：「那覇市図」で示す、(17)データ番号：

(17)那覇市立図書館所蔵山田文庫目録(那覇市立図書館(編・刊)『館報・77』(昭和53年3月31日発行))

本データベースは、那覇市立図書館の所蔵になる「山田文庫」の目録で、那覇市立図書館(編・刊)『館報・77』(昭和53年3月31日発行、86p)に収録された「沖縄関係と漢書目録」(郷土資料)に依っ

ている。「山田文庫」とは、山田有幹氏による沖縄関係郷土資料のコレクションで、昭和48年4月10日に山田有幹氏から那覇市に寄贈された。本データベースで設定されているフィールドは次の通りである。

(1)コード番号、(2)標題、(3)編著者名、(4)出版者名、(5)出版年、(6)ページ、(7)版型(cm)、(8)備考、(9)外字有無、(10)赤嶺コード、(11)大漢和コード、(12)典拠：「山田文庫」で示す、(13)データ番号

(17)琉球大学付属図書館(編)『学内出版物論文総覧』(略称：琉大内)

本データベースは、琉球大学付属図書館(編)『学内出版物論文総覧』(1977年)によるもので、ここには3072タイトルが収められている。これは、琉球大学が発行した各学部、学科の紀要、学生のクラブ誌、およびその他の学内出版物の記事への索引で、収録範囲は1976年11月末日までに琉球大学付属図書館に受入れたものに限定される。目録の記載事項は、著者名、論題、所蔵誌名、巻号、発行年月、掲載ページなどで、記事の配列の順は以下の分類表による。

人文・社会科学(哲学、歴史学、地理学、民俗学、社会学、心理学、政治学、法律学、経済学、経営学、国文学、英文学)、教育学(教育学、教育心理学、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、保健体育、技術教育、家政学、特殊教育、幼児教育、大学問題、図書館)、自然科学(数学、物理学、化学、生物学、海洋学、地学、機械工学、土木工学、電気工学、応用力学)、農学(農学、農業経済学、作物学、育種学、園芸学、植物病理学、昆虫学、農芸化学、農業工学、畜産学、休学)、保健学(保健学)

また、収録誌名の一部は、以下のように省略されている(「収録誌名の省略一覧表」による)。

文理学部紀要(人文科学編) 文理紀要(人文科学)

文理学部紀要(人文・社会編) 文理紀要(人文・社会)

文理学部紀要(人文編) 文理紀要(人文)

文理学部紀要(社会編) 文理紀要(社会)

法文学部紀要(人文編) 法文紀要(人文)

法文学部紀要(社会編) 法文紀要(社会)

法文学部紀要(史学・地理学編) 法文紀要(史・地)

法文学部紀要(国文学・哲学論集) 法文紀要(国・哲)

Ryudai Review of Language & LITERATURE R.L.L.

文理学部紀要(理学編) 文理紀要(理学)

理工学部紀要(理学編) 理工紀要(理学)

理工学部紀要(工学編) 理工紀要(工学)

Sesoco Marine Science Laboratory Technical Report Sesoco Mar.Sci.Lab.Tec.Rep

Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands.

Eco.Stud.Nat.Cons.Ryukyu.Is1.

農家政工学部学術報告 農家工学報

農学部学術報告 農学報

松田ゼミナール論文集 松田ゼミ

特別研究小論文集 特研報告

琉大学報 学報

なお、データベースの作成に当っては巻頭に付された「収録学内出版物一覧表」「学内紀要類解題一覧表」ならびに巻末の「著者名索引」は省略した。本データベースで設定したフィールドは下記の通りである。

(1)コード番号、(2)分類、(3)項目、(4)著者名、(5)論題、(6)所蔵誌名、(7)巻号、(8)発行年月、(9)所載ページ、(10)外字有無、(11)赤嶺コード、(12)大漢和コード、(13)典拠:「琉大学内」で示す、(14)データ番号

(18)石垣市市史編集室(編)『八重山関係文献目録 - 昭和58年12月末 - 』(略称:八重山)

石垣市市史編集室(編)『八重山関係文献目録 - 昭和58年12月末 - 』(昭和59年3月31日発行、石垣市役所 市史編集室、138+35p)による。『八重山関係文献目録 - 昭和58年12月末 - 』は、凡例によれば「本目録の収録範囲は、石垣市史編集室、石垣市立八重山博物館、石垣市立文化会館、沖縄資料編集所、沖縄県立図書館、同八重山分館、国立国会図書館、那覇市史編集室、琉球大学附属図書館等が所蔵している八重山関係の文献について、石垣市史編集室が独自に調査を行ない、それを整理・編集したもので、「1983年(昭和58年)12月末日までに調査のできた図書、雑誌、刊行物、論文、パンフレット等で、八重山に關係する資料が収録」されている(ただし、八重山に關係する記述があっても、その範囲が沖縄全体にわたっている資料については除かれ、また古文書等の史料については収録されていない)。

目録の分類は『日本十進分類表』に準じて、石垣市史編集室が作成した『八重山関係文献目録分類表』により0 総記、1 哲学・宗教、2 歴史、3 社会科学、4 自然科学、5 工学・工業、6 産業、7 芸術、8 言語、9 文学に分けられている。所在に関する情報は下記の略称で、また文献が原本以外の場合はコピー・ゼロックスは「複写」、コピー複製本・ゼロックス副製本は「複写製本」、マイクロフィルムは「MF」、マイクロフィルムは「写真副製本」と表示されている。データベース作成にあたって設定したフィールドは以下の通りである。なお索引は省略した。

(1)コード番号、(2)分類番号、(3)分類、(4)項目、(5)書名、(6)編著者名、(7)出版者、(8)出版地、(9)出版年(和暦)、(10)出版年(西暦)、(11)冊・枚数、(12)ページ数、(13)版型(cm)、(14)所蔵機関、(15)備考、(16)外字有無、(17)赤嶺コード、(18)大漢和コード、(19)典拠:「八重山」で示す、(20)データ番号

(19)『沖縄史料編集所紀要』(略称:沖編紀要)

沖縄県沖縄史料編集所(編)『沖縄史料編集所紀要』の巻末に掲載された各年次の「沖縄史関係論文目録」を情報化したものである。典拠とした各年次の目録は以下の通りである。

昭和五〇年度 沖縄歴史研究主要論文目録(一九七五・一~十二)

『沖縄史料編集所紀要』創刊号(1976年03月31日、p.152~159)

目録作成者:大城将保

昭和五一年度 沖縄歴史関係論文目録

『沖縄史料編集所紀要』第2号(1977年11月1日、p.160~185)

目録作成者:宮城保・田港朝和

昭和五二年度 沖縄史関係論文目録

- 『沖繩史料編集所紀要』第3号(1978年03月31日、p.160~185)
目録作成者：西原文雄
一九七八年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第4号(1979年03月31日、p.200~222)
目録作成者：高良倉吉、(協力)源河美津子、玉城盛松
一九七九年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第5号(1980年03月31日、p.172~192)
目録作成者：大城将保、源河美津子
一九八〇年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第6号(1981年03月31日、p.135~166)
目録作成者：源河美津子
一九八一年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第7号(1982年03月31日、p.162~205)
目録作成者：金城功
一九八二年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第8号(1983年03月31日、p.148~199)
目録作成者：源河美津子
一九八三年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第9号(1984年03月31日、p.163~207)
目録作成者：源河美津子
一九八四年 沖繩歴史關係主要論文目録
- 『沖繩史料編集所紀要』第10号(1985年03月31日、p.138~204)
目録作成者：源河美津子
沖繩歴史關係主要論文目録(一九八五年)
- 『沖繩史料編集所紀要』第11号(1986年03月31日、p.79~135)
目録作成者：石垣清美
沖繩歴史關係主要論文目録(一九八六年)
- 『沖繩史料編集室紀要』第12号(1987年03月31日、p.141~194)
目録作成者：石垣清美
沖繩歴史關係主要論文目録(一九八七年)
- 『史料編集室紀要』第13号(1988年03月31日、p.114~168)
目録作成者：石垣清美
沖繩歴史關係主要論文目録(一九八八年)
- 『史料編集室紀要』第14号(1989年03月31日、p.137~185)
目録作成者：石垣清美
沖繩歴史關係主要論文目録(一九八九年)
- 『史料編集室紀要』第15号(1990年03月31日、p.140~201)
目録作成者：石垣清美

沖縄歴史関係主要論文目録(一九九〇年)

『史料編集室紀要』第16号(1991年03月31日、p.77~137)

目録作成者：石垣清美

沖縄歴史関係主要論文目録(一九九一年)

『史料編集室紀要』第17号(1992年03月31日、p.147~196)

目録作成者：宮良長和

沖縄歴史関係主要論文目録(一九九二年)

『史料編集室紀要』第18号(1993年03月31日、p.219~289)

目録作成者：幸地令江

沖縄歴史関係主要論文目録(一九九三年)

『史料編集室紀要』第19号(1994年03月31日、p.195~267)

目録作成者：野村直美

沖縄歴史関係主要論文目録(一九九四年)

『史料編集室紀要』第20号(1995年03月31日、p.159~221)

目録作成者：久手堅愛子・田港朝和

沖縄史料編集所は改組によって1986年度より沖縄県立図書館附属の史料編集室となり紀要も『沖縄史料編集所紀要』と改称されている。なお『史料編集室紀要』第21号以降には文献目録は掲載されず、代わって『沖縄県史研究紀要』(1995年3月31日創刊号発行、沖縄県立図書館史料編集室編・刊)に次のものが掲載されている。

- (1)当山昌直(編)「1995年発行沖縄関係刊行物目録(暫定)」(沖縄県立図書館史料編集室(編)『沖縄県史研究紀要』第2号、沖縄県立図書館発行、1996年3月、p.137~188)
- (2)当山昌直(編)「1996年発行沖縄関係文献目録(暫定)」(沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室(編)『沖縄県史研究紀要』第3号、沖縄県教育委員会発行、1996年3月、p.127~176)

この沖縄史料編集所(沖縄史料編集室)紀要に連載された文献目録は、選択の基準が各号によって若干異なる場合が見られるが、1975年から1995年にいたる20年間の琉球・沖縄の歴史に関する研究の動向がほぼ把握出来ることを特色としている。ことに新聞等に掲載された歴史関係の時評、書評、研究動向等の記事にまで目配りされていることはまことに有効である。

目録の記載は「論文(雑誌・紀要・その他)」「歴史関係論文記事(新聞)」「単行本」に大別され、論文は論文名、編著者、掲載誌(書)名、発行月、新聞の場合は論文・記事名、著者、紙名・月日(連載回数)が、また単行本の場合は書名、編著者、発行所、発行月の順で記述され、各年に若干の補遺が付されている。創刊号(1975年分)から第20号(1994年分)までの20年間に及ぶ期間の収録文献の数は17909レコードである。

- (1)コード番号、(2)紀要号数：歴史編集所紀要の号数、(3)紀要年度：歴史編集所紀要の発行年度、(4)目録名：文献目録の表題、(5)種類：文献の種類を単行本、雑誌・紀要、新聞等に区分、(6)区分、(7)分類、(8)編著者、(9)書名：単行本の場合の書名、(10)発行者、(11)論文名：雑誌・単行本等に掲載された論文表題、(12)誌(書)名：論文を掲載している誌名・書名、(13)巻号：掲載雑誌の巻・号、(14)記事名：新聞掲載の場合の記事表題、(15)特集テーマ：シリーズで掲載した場合などの新聞記事の特集テ

一マ、(16)紙名：掲載新聞名、(17)朝・夕刊：朝刊・夕刊の別、(18)発行年：単行本、雑誌、新聞などの西暦発行年、(19)発行月・日：新聞記事掲載新聞の発行月・日、(20)連載回数：新聞記事連載の場合の連載回数、(21)備考、(22)外字有無、(23)赤嶺コード、(24)大漢和コード、(25)典拠：「沖編文献」で示す、(26)データ番号

(20)新城安善(編著)『沖繩書誌総覧 - 沖繩書誌の書誌 - 』(沖繩県図書館協会刊、総発売元：ロマン書房本店、1991年7月、329p)

研究文献情報や史料所在情報を統合して琉球・沖繩の歴史資料の情報化を進める上で大きな手がかりになったのが、新城安善氏による『沖繩書誌総覧 - 沖繩書誌の書誌 - 』である。本書は、永く琉球大学付属図書館に勤務されて多くの琉球・沖繩関係資料等の目録作成業務に携わってこられた新城安善氏が、在勤中の経験の蓄積をもとに、退職後沖繩県立図書館に勤務されながら「1987年3月から着手し、ほぼ2ヵ年余を経て、1989年末に脱稿したが、諸般の自由で更に1ヵ年の歳月」をかけて上梓されたもので、「明治・大正・昭和期から平成2年(1990)12月末までに刊行された沖繩・奄美関係の二次資料(目録・書誌)等を網羅的・系列的に収録した」書誌目録である。

本目録に採録された書誌資料は(1)目録・書誌として独立体裁をもつ単行書誌、(2)一般図書のみで一部分として掲載されている書誌(文献リスト、書誌解題及び書誌解説)、(3)逐次刊行物のみで一部分として掲載されている書誌(文献リスト、書誌的文献解題、出版状況紹介及び解説)、などで、目録の記載形式は、図書(単行書誌)、図書掲載書誌、逐次刊行物掲載書誌、全集・叢書等、などの種類ごとに以下のように記載されている(発行年月は西暦年で統一)。

図書(単行書誌)

書名、著者名(编者名)、出版事項(発行地、発行所、発行年月)、対照事項(頁数、版型サイズ)

図書掲載書誌

題名、編集者名(執筆者名)、出典書誌(書名、著者、出版事項、掲載頁数)

逐次刊行物掲載書誌

題名、編集者名(執筆者名)、出典書誌(誌名、巻号、発行年月、掲載頁数)

また、それぞれ必要に応じて内容項目、解説、註記事項等が簡明に記されている(不明事項のあるものは<書誌事項不詳>と記す)。書目の各タイトルには一連のタイトルナンバーが付され、下記のごとく総記、人文、社会、自然科学等の分野別に分類・配列されている。なお【補遺】は、1989年11月～1990年12月までの見落とし及び新規書誌等をまとめたものという。

【総記】 - 一般書誌、出版目録、所蔵目録、逐次刊行物目録、博物館関係書誌

【人文科学】宗教関係書誌、考古学関係書誌、歴史関係書誌(一般書誌、北部地域書誌、中部地域書誌、南部地域書誌、宮古地域書誌、八重山地域書誌)、地誌関係書誌、芸術関係書誌(一般書誌、文化財関係書誌、芸能関係書誌、工芸関係書誌)、スポーツ関係書誌、言語関係書誌、文学関係書誌(- 一般書誌、歌謡関係書誌、おもろ関係書誌、琉歌関係書誌、組踊り関係書誌、戦記文学関係書誌)

【社会科学】政治関係書誌、行政関係書誌、法制関係書誌、経済関係書誌(一般書誌、企業関係書誌、金融関係書誌、移民関係書誌)、財政関係書誌、統計関係書誌、産業関係書誌(一般書誌、農業関係書誌、蔬菜・園芸関係書誌、醸造・糖業関係書誌、畜産関係書誌、林学・林業関係書誌、商業・交通・通信関係書誌)、社会関係書誌(一般書誌、労働問題関係書誌、女性問題関係書誌、福祉問題関係書誌)

教育関係書誌、民俗・民族学関係書誌(民俗関係書誌、民族学・文化人類学関係書誌)、軍事・国防関係書誌

【自然科学】一般書誌、地学・地質学関係書誌、気象関係書誌、生物関係書誌、天然記念物関係書誌、植物関係書誌、動物関係書誌(一般書誌、陸生動物関係書誌、海生動物関係書誌、昆虫関係書誌)、医学・保健関係書誌、工学関係書誌

【奄美】一般書誌、人文・社会科学関係書誌、自然科学関係書誌

【欧文】一般目録、主題目録

【補遺】

本目録のデータベース化にあたって設定したフィールドは以下の通りである。

(1)コード番号、(2) : 本目録の各書目に付された一連番号、(3)分野・分類・項目 : 上記の分類[【分野】分類(項目)]による、(4)種類 : 書誌の種類ごとに、図書(単行書誌)、図書掲載書誌、逐次刊行物掲載書誌(逐刊と略記)、全集・叢書等掲載書誌、と表示した、(5)書名・題名 : 書誌の書名・題名を示す、(6)編著者名、(7)収録書(誌)名、(8)巻号、(9)収録書(誌)の編著者名、(10)掲載ページ : 収録書(誌)における掲載ページ、(11)出版地、(12)出版者、(13)出版年月 : 西暦で表示、(14)ページ数 : 単行書のページ数を示す、(15)版型サイズ : 単行書の版型サイズ、(16)記事、(17)外字有無、(18)赤嶺コード、(19)大漢和コード、(20)典拠 : 「新城書誌」で示す、(21)データ番号 : [新城書誌]+[コード番号]で示す